

大使からの活動報告

2月後半から3月上旬の活動

＜草の根無償資金協力による小学校改修・引渡式他＞

2014年 3月9日

在グアテマラ日本大使館

川原 英一

◆草の根無償資金協力による小学校改修・引渡式

2月21日、首都から北西に車で2時間近くのところにあるサンファン・サカテペケス市の集落小学校で、日本の草の根無償資金協力により改修が終わった小学校施設の引渡式が盛大に行われました。学校主要施設である教室、トイレ(男女別)、調理室、以上、3つの西語頭文字をとったABCが、とても立派に整備され、職員室も新たに設置されました。トイレは、雨水を貯めて利用した水洗式です。



小学校のある地元住民と TIGO 財団(当地大手携帯電話会社が、CRS 活動として、小学校の改修に協力)が受入れ団体となって改修工事を実施したものです。引渡し式のあった小学校敷地内は、お祝いの松葉が敷かれて、小学校児童が日本とグアテマラの旗を持って、来賓を歓迎してくれました。首都から、国会出席中の大臣の代理として、教育省次官(真ん中の写真)がヘリコプターで駆けつけて頂いた他、地元市長、TIGO 財団関係者が来賓として参加しました。地元 TV メディアも取材に来てくれていました。校長先生にお聞きしたところ、小学生が640名おり、昨年11月に6年生80名以上が卒業、2月から新入生が入って来たこと、卒業した児童数は入学した当時児童数の8割程度で、小さな兄弟の世話などがあり、小学校を卒業できない児童が2割いるということです。また、地元の市長さんからは、2年前に市長就任後、特に教育関連予算を4倍に引き上げ、手厚くしているが、まだまだ、学校インフラ整備が深刻な問題であることなど伺いました。

◆日本人学校学習発表会

2月22日、日本人学校で学習発表会がありました。小学2年から中学1年生までが参加し、器楽演奏、時代劇の1シーン、漢文の朗読、TV ニュース番組、二分の一人成人式(10才児童)、今伝えたい事、合唱と児童のふるさと紹介と多彩かつ創意工夫のある学習発表内容でした。一人一人の児童・生徒が日頃の研究の成果を立派に発



表できており、大変に感心を致しました。

GNN(グアテマラ日本人学校)世界ニュース番組の二人のキャスター(児童)による米作り・品種改良の歴史とお米の消費の減少傾向、水産業の盛衰と養殖漁業がこれから注目されることなど、実態を示すグラフと写真を利用した、わかりやすく、立派な研究発表に驚きました。また、一輪車や跳び箱の妙技披露も大変に上手でした。いずれも拝見していて感動致しました。

◆福知山成美大学野球部チームの来訪

2月24日、福知山成美大学の野球部員7名が来訪し、当国におけるJICAボランティア・スポーツ活動についての御報告を頂きました。同大学野球チーム7名は、当国に3週間滞在して、その間、ケツアルテナンゴ市など各地の小学校・中学校の野球少年、地域の野球チームなどの指導を行ってくれました。



同野球部チーム(代表者は3回生の細間君)の中には、リトル・リーグから活躍していた部員が半数おり、米国・豪・台湾のチームと親善試合の経験があったこと、当国の野球少年達は、ユニフォームやスパイクシューズがなくても野球を楽しんでいたこと、TV野球番組をみたこともない子供が多いこと、日本では、基礎からしっかりと指導がなされるが、当地

でそうした指導があまりなされていないこと、小学生が硬式ボールを使用して野球をしており、肘を痛めた子供がいたことが印象に残ったこと、地方都市を訪問し、当国の人々の良さがよく分かりました、とのお話を伺いました。

◆青年協力隊ボランティア活動理解促進ミッションの来訪

2月25日、日本でミュージシャンとして活躍されている真戸原(まとはら)直人さん(写真右端からお二人目)が、JICAの企画によるボランティア事業理解促進のため、当国を訪問し、1週間、青年協力隊員が活躍している西部3県での活動を視察し、20名以上の隊員と懇談した



とのお話をお聞きました。

特に、協力隊員が小学校先生に算数授業について指導しているのに驚いたことや妊婦さんの健康増進活動をみて、身近にできることがたくさんあるのだと感じたこと、小学校の子供達の授業の様子をみて、非常にしっかりと教えを聞いていること、また、好奇心があり、シャイな子供達であったこと、当国で出会った人た

ちが、真面目で勤勉なところは、以前訪問した、ミャンマーで出会った人達と同様な印象を受けたとの感想を伺いました。

当方からは、ここ 10 年の取り組みの中で、協力隊員・専門家が作成した算数教科書が当国の公立学校で導入され、子供達の算数能力が飛躍的に向上していること、また、当国はマリンバ発祥の地であり、2015 年には日本と中米諸国との交流年となることから、音楽を通じた当国と日本との交流が実現すれば有り難いなどのお話を致しました。

■訪日研修員同窓会・中米カリブ地域総会の開催

メキシコ、グアテマラ、エルサル、ホンジュラス、ニカラグア、コスタリカ、ジャマイカの7カ国の JICA 訪日研修員同窓会幹部がグアテマラに集まって地域総会を開催することとなり、その初日の2月26日夕に開会式が大使館事務所会議室でありました。また、当方主催の歓迎レセプションを公邸(左写真)で行いました。

当方からは、グアテマラだけで、これまで日本に研修員を派遣した総数が2千名を超えること、今年はグアテマラから研修員派遣を開始して30周年を迎えて、喜ばしいこと、日本を知る訪日研修員は日本とこれら各国との関係を深める上で大変に重要な存在であり、今後の活躍



を期待していますとのご挨拶を致しました。また、公邸でのレセプションでは、おでん・天ぷら等日本料理をお出したところ、大好評でした。今回の総会をホストしたグアテマラ同窓会会長のエストラダさん(右写真の右端から2人目)は、宮崎県での水質管理の研修を9ヶ月間受け、今でも日本語でお話ができる方であり、グアテマラの水質管理研究所長をされています。各国

の同窓会幹部の方も、環境、防災、産業工学、建築、土木工学、経営学、身障者能力向上など、実に多様な分野での訪日研修を過去に受けて、現在、大いに活躍をされておられると伺いました。日本の技術支援が、こうした方々の活躍により各国に普及していることを知り、大変に喜ばしく思います。

■文部科学省国費留学生諸君との懇談:

3月3日、今年4月以降に訪日する国費留学生諸君(右写真)とお会いする機会がありました。日本の4大学の修士課程コースに進む予定の4名と日本工学院で電子工学を学ぶ予定のオットー君の計5名の若者達です。マルレンさんは、環境省傘下の機関に所属していますが、立命館大学大学院で持続的観光・エコツーリズムを研究予定であり、マノロ君は、大気汚染・排ガス規制について千葉大学大学院で研究予定、アナさんは、再生可能エネルギーや水の再利用に関する研究



のため東京大学大学院へ、更にルイス君は、包括的都市計画研究のため東京理科大学大学院に進む予定です。皆さんが、それぞれに、自分を取り巻く環境に関連した諸問題に関心を持ち、取組み課題を見つけて、日本での研究の道を選んだ大変に優秀な若者です。マノロ君は、昨年、アルバイトで稼いだ資金をもとに2週間日本を訪問し、希望大学を訪れてきたそうで、なかなか行動的な青年です。5人ともに英語に堪能な理由を聞いたところ、5人がそれぞれに小学生の頃から英語教育を受けていたとの答えが返ってきました。

◎日本の一品一村運動を含む地場産業支援:

3月4日、グアテマラ JICA 事務所の池田哲朗企画調査員(左下写真の左端の方)が2年の任期終了のご挨拶に来られたので、お話を伺いました。



グアテマラ西部3県での生計向上のための技術協力プロジェクトとして、一品一村(西語で OVOP)運動を含む地場産業に関わる体制づくりに取り組まれ、当国経済省中小企業担当次官室、県、市レベルの間での調整にいろいろ苦労された経験など伺いました。また、このプロジ

ェクトに関わる現場事務レベル、中堅、担当次官といった政策決定レベル関与者計30名が、大分県に派遣され、立命館大学アジア太平洋大学で順次研修を受けたこと、今では、OVOPの良さが理解されて、当国の中小企業支援の代表的なスローガンになっていること、日本のアフリカでの一品一村運動の経験をまとめた実務書の西語版を JICA が1年がかりで作成したお話など大変に興味深く感じました。

◆フランシスコ・マロキン大学学長との懇談:

当国私立大学中でも特に評価の高いフランシスコ・マロキン大学は、首都中心部に近い溪谷に沿った緑の多い恵まれた環境にあります。3月6日、同大学学長のガブリエル・カルサーダ(Gabriel Calzada)さんとお話する機会がありました。大学運営に政府の支援・関与を断り、実業界人が大学運営に関与していること、最新テクノロジーを教育に積極的に利用すべく、200



0年にオンライン教育を開始したこと、また、1998年には、大学内に、当時としては珍しい WiFi 環境を整備した話もありました。学生には、想像力豊かで、問題解決能力を高めるよう指導し、ハーバードやペンシルベニア大など160以上の他大学との交流プログラムがあり、今後、中米地域外での知名度をより高めたいとの抱負を伺いました。当方から、

2015年が日中米交流年であり、大学と連携した企画が実現できれば有り難い旨お話ししました。(了)